

ペットの効用

犬がいる家庭は、赤ちゃんが丈夫に育つそうです（7月30日付朝日新聞）。その理由が、「犬が外で汚れて家に戻ってくるためではないか」という事ですから、面白いですね。

朝日新聞の報道によると、これはフィンランドの研究チームが、フィンランドの乳児397人を対象に1歳になるまで毎週、健康状況や抗生物質の使用などを報告してもらい纏めたもので、その結果「全体では7割が発熱を、約5割が抗生物質の使用を経験、中耳炎にかかった割合は4割だったが、このうち犬のいる家庭では中耳炎にかかる割合が半分近くに減り、発熱やせき、抗生物質を使用する割合も1～3割少なかった。」ということで、犬が屋外と屋内を行き来するような家庭ほど子どもが健康に育つ傾向が見られるとしています。

その理由について研究チームは、動物との接触で細菌にさらされて免疫が発達し、体が丈夫になるのではないかと見ているようです。

以前から、アレルギー疾患が増える原因の一つに環境が清潔すぎることにあるといふ「衛生仮説」というのがありますが、今回の研究チームの発表は、それを裏付けるものといえるでしょう。

最近では、犬を飼っている人を沢山見るようになりました。朝、我が家の愛犬「太郎」と散歩に出かけると、必ず犬と散歩している方に出会います。それも一人や二人ではありません。

今では、ペットを飼えるマンションやペットと泊まれるホテルも珍しくなくなり、まさにペットブームといって良いと思いますが、赤ちゃんも丈夫に育つといわれると、ますます犬を飼う家庭が増えるのではないのでしょうか。

ペットフードメーカー等で組織しているペットフード協会が実施した「平成23年度全国犬・猫実態調査」によると、全国で飼われている犬は約1200万頭、犬を飼っている世帯は約950万世帯、世帯率は17.7%、また、1世帯当たりの飼育頭数は1.26となっています。確かに、犬と散歩している人を見ると、2～3頭と連れ立っている人が多いように感じます。

ちなみに、飼われている猫の頭数は約960万頭、飼っている世帯は約55

0万世帯という事ですから、犬に比べると少数派となっています。

ところで、何故こんなにも犬を飼う人が多いのでしょうか。

良くいわれているのは、核家族化、少子高齢化がペットブームを支えているということです。

我が家は家内との二人暮らし、典型的な高齢者世帯です。結婚生活も40年近くなっていますので、お互い話すこともそう多くはありませんが、こうした二人の生活にとって、全くいう事を聞かない太郎（犬の名前です）の存在は、刺激的です。太郎が悪いことをして家内が怒っている声を聞いたりすると、生活感さえ漂います。

太郎と生活していて一番感じる事は、太郎が子どもや孫の代わりにしてくれているということです。実際、太郎自身は遊んだり、騒いだり、時に甘えたりする以外には何もできませんから、手間が掛かるという点ではまさしく幼児と一緒にです。悪いことをしていると自覚しながら悪戯をするというところも、一緒かも知れません。

犬と飼い主との関係は、「無償の愛」とでもいうべきものによって繋がれています。犬の行動が愛という感情によるものかどうか分かりませんが、少なくとも、彼らの行動には打算がありません。犬が「癒し」の存在であるということも、その「無償性」にあるのではないかと思います。これは、犬以外のペットを飼っている方にとっても同様でしょう。

犬は、その持っている「癒し」の力で人の心の免疫力を高めるだけではなく、今回フィンランドの研究チームが明らかにしたように、体の免疫力を高める事にも貢献しているという事ですから、我が家の太郎にはもう少し感謝しなければいけないようです。（塾頭 吉田 洋一）